戦争中の生活インタビュー

2024年5月下旬実施

池田　斉

1　生活地域

新潟市四ツ屋町

2　家庭環境

職業：父母とも国鉄職員。当時母が外に勤めている家庭は57人クラスの中で2～3人。母は38年勤め女性としては珍しい管理職だった。兄は幼時に亡くなり、姉と2人兄弟。父母、祖母、叔母の6人家族。

3　就　学

栄尋常小学校入学→2年時に国民学校に→新潟中学校。在学中学校制度が変わり、名称が新潟高等学校に→新潟大学法学部（現在）

4　戦争中や戦後に経験したこと

・私が生まれる2ヵ月前ころ、母は仕事の過労で深夜帰宅途中、倒れて病院に運ばれる事件があった。
・母は働きながらの子育てだったので、駅のトイレで私の授乳をやっていたと聞いている。
・1937年からの中国との戦争で首都南京陥落。お祝いの提灯行列があった。
・近所の徴兵された人が、みかん箱の上に上がり「行ってきます」と決意を述べた。
・昭和16年（1941年）12月8日、真珠湾攻撃で始まった米英両国との戦争の臨時ニュースで家中大騒

ぎだった。

・「撃ちてし止まむ」「欲しがりません勝つまでは」といったポスターがはられた。

・小学校では、元日、2月11日(紀元節)、4月29日(天長節)、11月3日(明治節)に全校式典があった。

・4年生以上の男子は集団訓練があった。「頭右」とか「歩調をとれ」の掛け声で足を高く上げて一糸乱れず行進できるようにきびしく指導された。軍事教練の基礎で、その時中心になって指導した2人の先生のことを私はよく覚えている。2人とも戦後新潟市内の中心校の校長になった。

・1943年4月、長岡出身の連合艦隊司令長官山本五十六大将が戦死。国民は悲しんだ。

・戦争が長びき学校の大きな世界地図の黒板には玉砕(兵隊が全員死ぬこと)のマークがかかれ、その数は増えていった。

・学校の裏の砂山には避難用の防空壕がつくられ、何回も避難訓練が行われた。

・アメリカ空軍の日本爆撃に備えて防空(防火)訓練が行われた。バケツリレーは女性の担当だった。

・自宅の裏の畑(砂地)に穴を掘って5〜6人入れる防空壕を父が造った。

・灯火管制があり、窓には厚いカーテンやネズミ色台紙を貼り、明かりが外にもれないようにした。

・金属拠出回収(武器にする)促進のため県庁に金属回収課が新設、姉はそこに転勤。わが家は金属の大きな火鉢を拠出。

・5年生の時、体を鍛える(飛行機の搭乗兵の育成か)ため大きな車輪につかまってグルグル回転する運動をやった。

・今の沈埋トンネル入り口付近の砂丘に高射砲陣地がつくられ、その兵隊が学校の体育館に寝泊まりした。したがって、体育館は使われなかった。6年生の時か男子百十数名で高射砲陣地を見学にいった。モグラの巣のような洞穴もあった。

・B29爆撃機が何回も空襲。機雷を港や突堤付近におとした。7月中旬かグラマン戦闘機が来襲、防空壕に逃げる私たちの頭上低く飛んだ。

・強制疎開の前日、8月1日夜、長岡がB29の爆撃をうけた。近くの小高い日和山に登ってみたら、長岡の空が赤くなっていたように思えた。

・負けることが続いたが「いまに神風が吹いて敵は逃

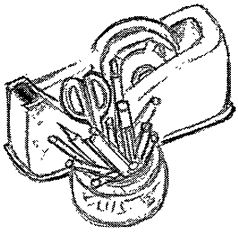
げていく」といわれ、それを信じていた。
・8月2日、祖母と従姉妹と3人で築地村（現在　胎内市）の親戚に疎開した。
・原子爆弾については、「新型爆弾」の報道ですごい被害だったと大人たちから聞かされた。
・天皇の敗戦の言葉は、ラジオがよく聞こえずわからなかった。
・敗戦の後、家族は新潟の自宅に帰り、私一人残った。8月下旬父が迎えにきて新潟に戻った。姉の夫、従兄、従姉の夫、など4人が外地に従軍したが無事帰ってきた。姉の夫の兄はシベリア抑留となりむこうで亡くなった。残された遺族は戦後苦労した。
・戦後、日本は「ファシズム」から「自由主義」へと大きく変わった。私の中学から高校時代である。これまでの権威は地に落ちた。「大曾根家の朝」という映画を見た。当時の日本ずばりの素晴らしい映画だった。
・進駐軍（占領軍）のジープの後を追いかけて、ガム、キャンディなどをもらった。
・豪邸を進駐軍の幹部が接収して住んだ。新津邸は司令官が住んだ。あちこちに、「マ司令部の命により――」の立て札が立った。
・食糧がなく、朝はすいとん（味噌汁に小麦粉のだんごをいれた）、米飯に菜っ葉、大根、さつまいも、などが入ったものを昼弁当、夕食に食った。おかずも少なかった。
・神経痛だった父にかわり食糧買い出しに数多く行った。汽車も満員で機関車に乗ったり、デッキにつかまって乗ったりした。警官の「闇米取り締まり」でみんな捨てたこともあった。
・教科書は紙質の悪いもので、製本されず新聞紙のようなものだった。自分で切って薄い本にした。
・1年下から義務教育が今の制度になった。校舎が足りず、半日授業が1～2年続いた。
・近所の仲間と少年野球チームをつくり日曜には試合をやった。

5　戦争への思い

戦後70有余年、戦争で死んだ自衛隊員はいない。すばらしいことだ。今、台湾をめぐり日本もからんだ抗争の危険がある。日本は、第2次世界大戦の多くの犠牲と反省の上に「日本国憲法」をつくった。特に前文

と第9条は世界に誇れるすばらしいもので、絶対守らなければならない。戦争は人間を不幸にする。この原稿を書きながら、当時を振り返り、この思いをさらに強めている。

（いけだ　ひとし・新潟市）



戦争の実相を伝えるために

戦争のリアルな現実や、争いの発端、戦争を拡大するたくらみの内容、戦争に反対した人々の取組を残すことに務めています。また、毎年実施される「平和のための戦争展」などの企画を実施して、市民に広く宣伝しています。

そのために作成したパネル、県内で実施された企画の実施状況に関する資料などを、ホームページで公開しています。

ＵＲＬは、https://cf254096.cloudfree.jp/heiwayobikake.phpです。（グーグル検索「戦争反対、平和を守るために」）

戦争を体験した方々がどんどん少なくなっています。さらに、戦争を美化・準備する動き、「祖国防衛の為に戦え」と迫る国の指導者が大手を振って独裁と反対勢力を弾圧する動きが顕著になってきています。

「平和について考え、行動しませんか」と、訴えています。

（小東）